

事後評価調書

【道路事業】

東播磨南北道路

県土整備部
土木局 道路街路課

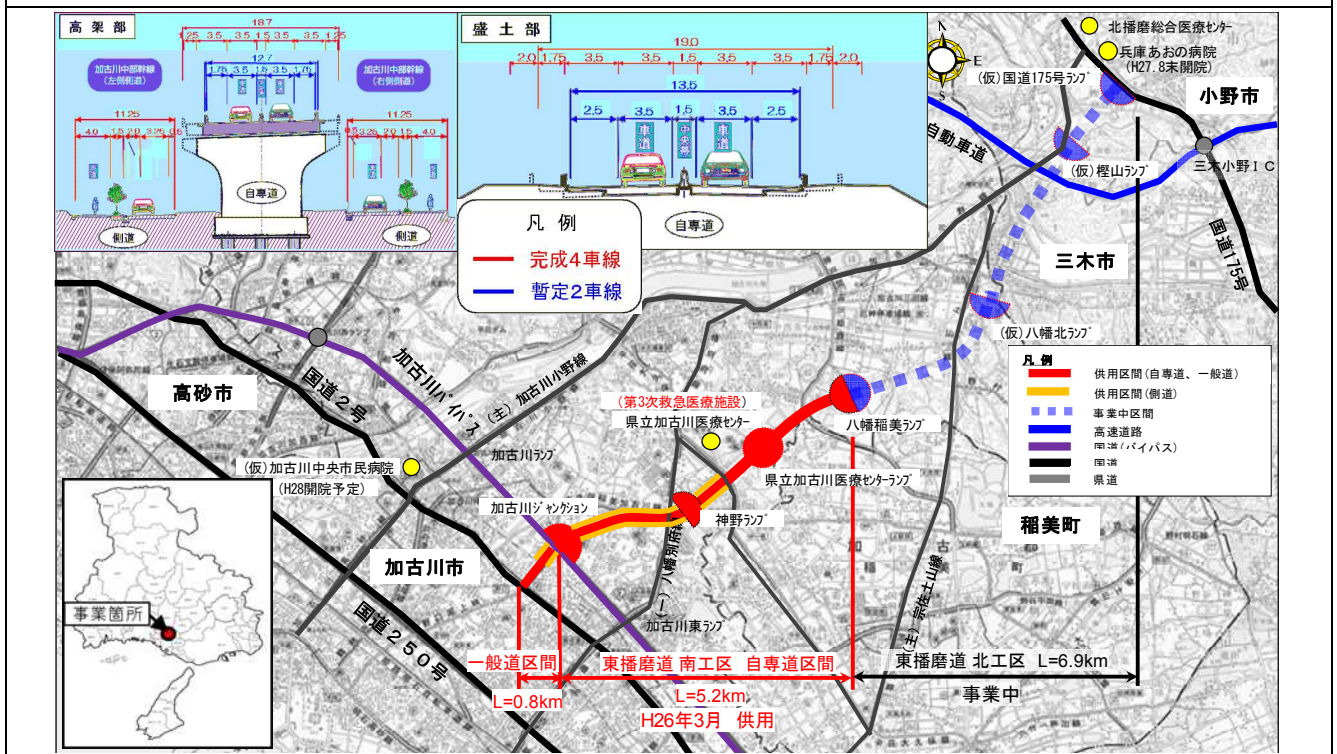
事後評価調書

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 杉浦 正彦 (県道班長 吉村 達郎)	内線	4362 (4376)
------	-------------------	---------------------	------------------------------	----	----------------

事業種別	道路事業	事業名	東播磨南北道路 (主要地方道 加古川小野線)		
事業区間	加古川市野口町坂元～八幡町上西条				
事業期間	計画 (再評価時)	平成10年度～平成25年度	事業費 (用地補償費)	計画 (再評価時)	690億円 (193億円)
	実績	平成10年度～平成25年度		実績	690億円 (193億円)
完了年月	平成26年3月		過去の評価	平成19年度、平成24年度に再評価	

事業目的	事業内容
<p>地域高規格道路である東播磨南北道路(東播磨道)は、加古川市の加古川バイパスと小野市の国道175号を結ぶ自動車専用道路である。</p> <p>このうち第1期として、加古川バイパスから八幡稲美ランプ間5.2kmと、一般道路区間として、国道2号から加古川バイパス間0.8kmの計6.0kmを整備した。</p> <p>○交通渋滞の緩和、安全安心の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 東播磨地域の南北交通を効率的に処理し、交通渋滞の緩和、交通事故の削減等を図るとともに、災害時の緊急輸送路となる。 <p>○地域連携・交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業により、東播磨地域と北播磨地域との所要時間が短縮し、地域の連携や人・モノの交流が一層拡大する。 <p>○医療機関の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立加古川医療センター(三次救急医療施設、災害拠点病院)へのアクセスを向上させるとともに、周辺の二次医療救急施設との連携強化を図る。 	<p>【延長】6,000m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自専道区間：5,200m (暫定2車線施工) ・一般道区間：800m ・側道区間：3,300m <p>【構造規格】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自専道区間：第1種第3級平地部 ・一般道路及び側道：第4種第1級 <p>【計画幅員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自専道区間 14.0(18.7～19.0)m：4車線 7.0(12.7～13.5)m：暫定2車線 ・側道 3.25(11.25)m×2 (両側) <p>【計画交通量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自専道区間：30,500台/日(全線供用時) ・側道区間：10,200台/日 <p>【現況交通量】(H27.4.21～22観測)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自専道区間：28,505台/日 ・側道区間：10,724台/日

●事業概要図

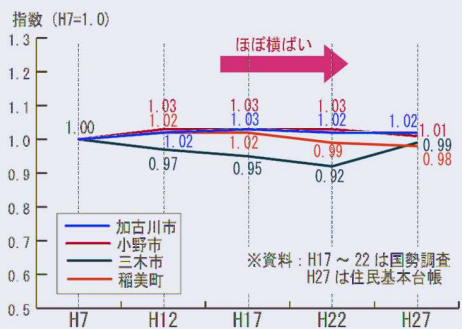


●事業を取り巻く社会経済情勢の変化

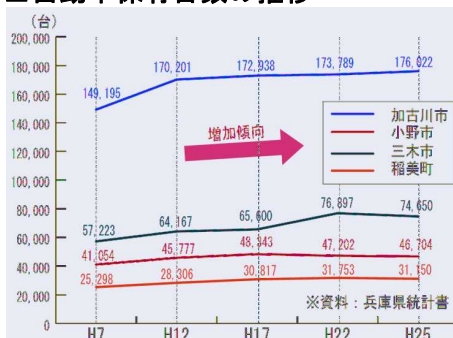
①人口・自動車保有台数の推移（加古川市、小野市、三木市、稲美町）

・人口は概して横ばいであるが、自動車保有台数は増加傾向であり、自動車交通への需要は増している。

■人口の推移（平成7年を1.0とした場合）



■自動車保有台数の推移



●事業の効果の発現状況

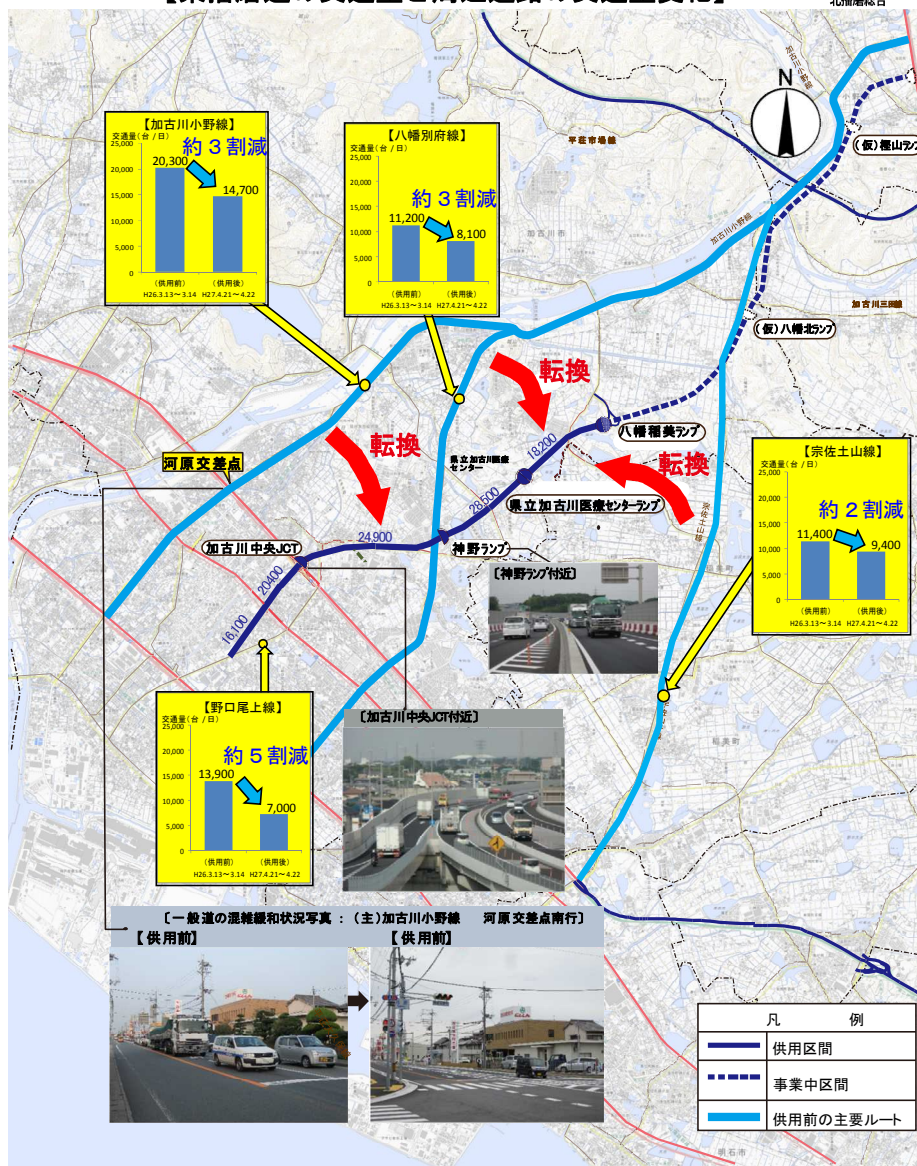
直接効果

1. 交通状況の変化

(1) 交通転換

①東播磨道の供用により、加古川小野線などの現道交通量が約2～5割減少し、交通の円滑化が図れた。

【東播磨道の交通量と周辺道路の交通量変化】



●事業の効果の発現状況

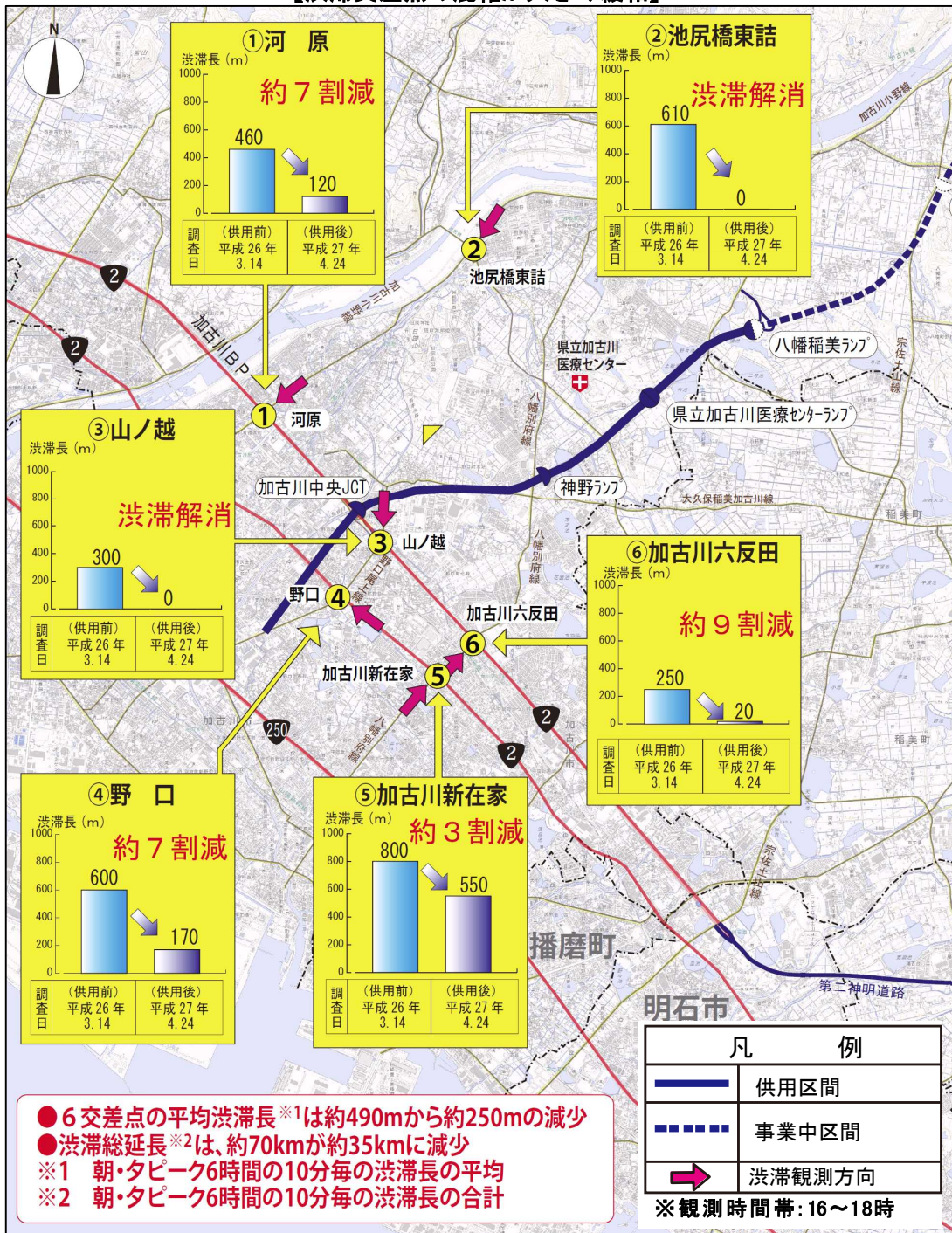
直接効果

1. 交通渋滞の緩和、安全安心の確保

(2) 渋滞の緩和

- ①東播磨道の供用により河原交差点などの渋滞交差点で、交通混雑が解消・緩和。
- ②6カ所の渋滞総延長は、約70kmから約35kmに半減。

【渋滞交差点の混雑が大きく緩和】



【加古川六反田】

【整備前】



【整備後】



【河原】

【整備前】



【整備後】



●事業の効果の発現状況

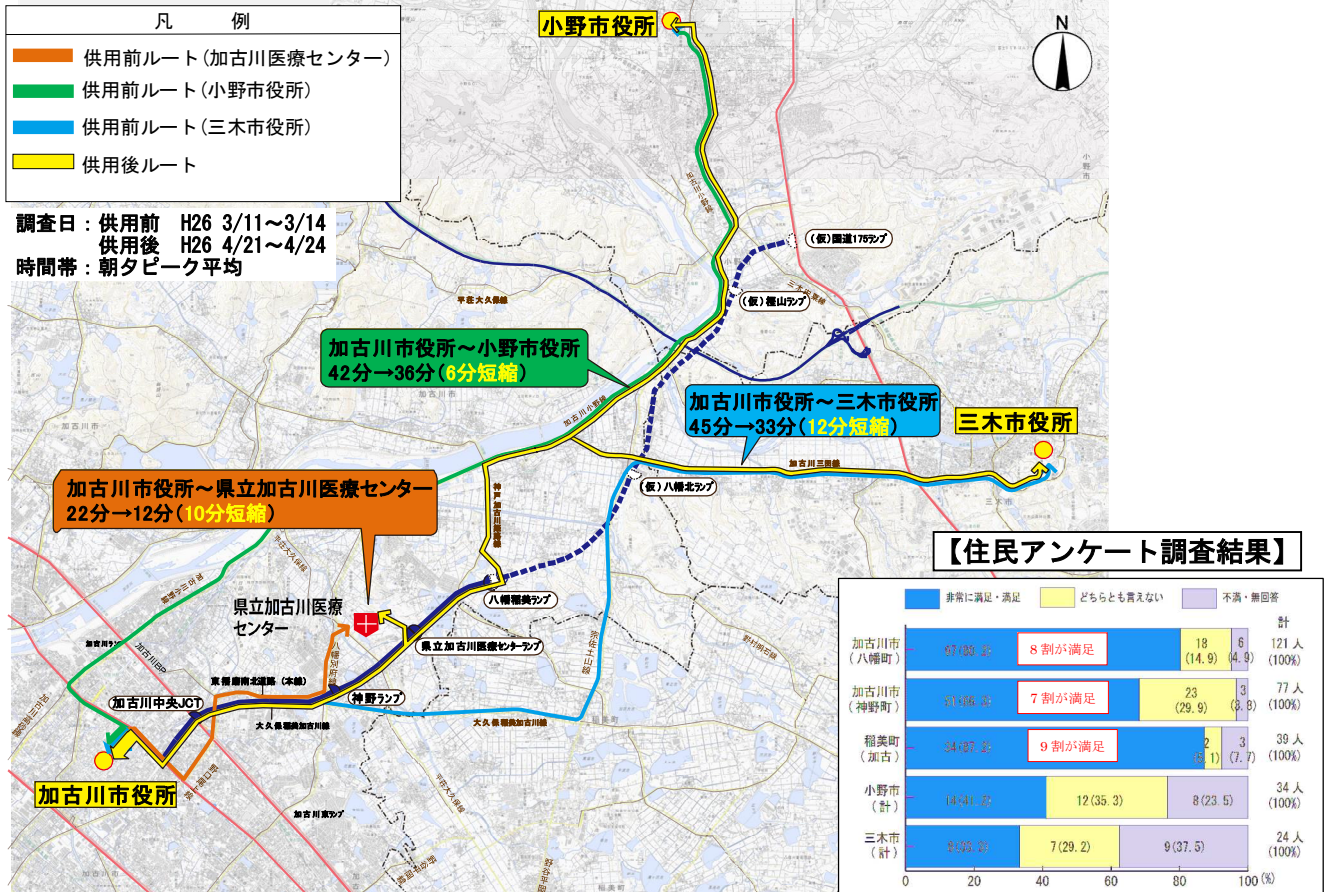
直接効果

2. 地域連携・交流の促進

(1) 移動時間の短縮、防災機能の強化

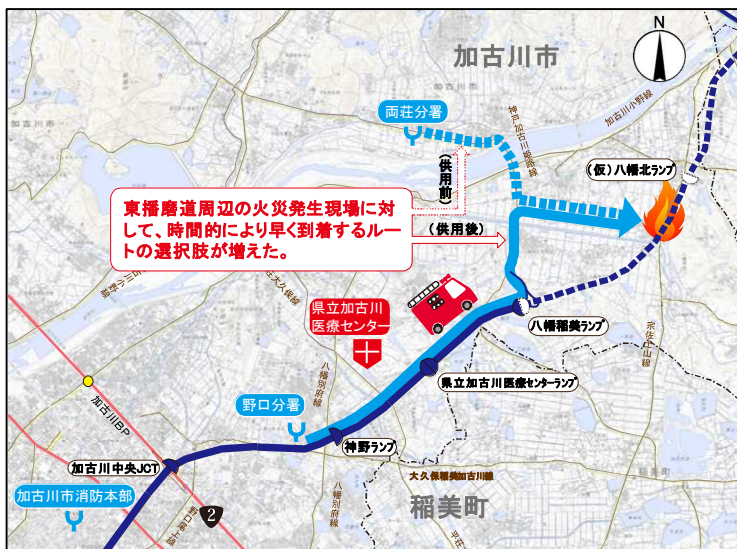
- ① 加古川市及び稲美町の沿線住民の約8割が「所要時間の短縮効果」に非常に満足又は満足と回答。
- ② 一方、小野市など北播磨地域では「所要時間の短縮効果」の満足度は約4割となっている。

■加古川市役所から三木市役所、小野市役所、県立加古川医療センターまでの所要時間比較



(2) 防災機能の向上

- ① 火災発生現場により早く到着することが可能になった。
- ② 東播磨道周辺の災害発生現場に対して、より早く到着するルートを選択肢が増えた。

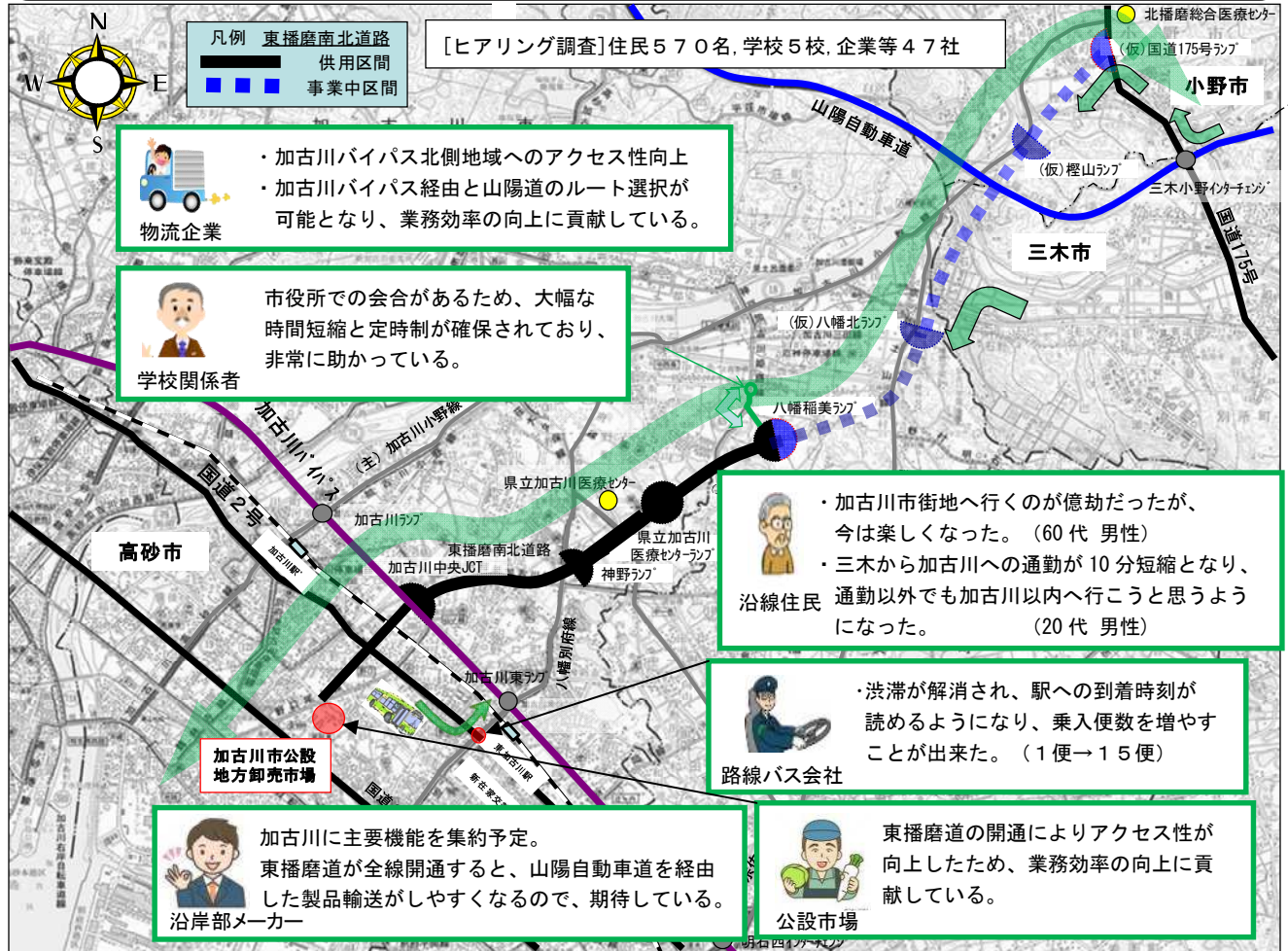


●事業の効果の発現状況

直接効果 2. 地域連携・交流の促進

(3) 地域間交流の促進

- ①東播磨道の供用により、加古川バイパス北側地域と南側地域のアクセスが大きく改善されたとの声が寄せられている。
- ②例えば、東加古川駅乗入れバス便数15倍増。



【路線バスの利便性が向上】




●事業の効果の発現状況

直接効果

3. 医療機関の連携強化


(1) 医療機関へのアクセス性向上

- ・ 外来患者の通院時間が大幅に短縮。
- ・ 全線開通すれば、ドクターカー利用も大いに向上。

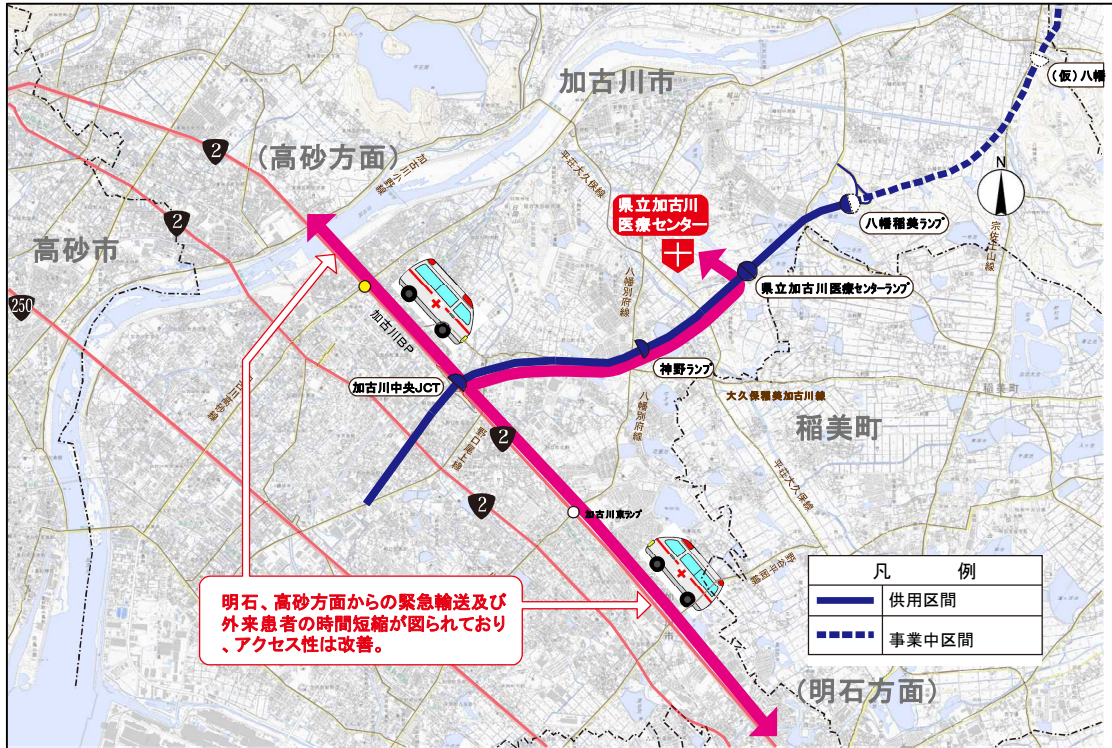


県立加古川医療センター

- ・ 明石や高砂からの救急搬送時の時間短縮。



救急隊員



医療施設のネットワーク化

